

S-RED 通信

社会・地域創発本部 Society Region Emergence Department

こころとカラダのライフデザイン共創拠点 第1回幹事機関会議(9/1)

これまでの振り返りや、今後の活動方針などの重要事項を検討するため、FMI 国際拠点にて第1回幹事機関会議を開催しました。本学の長谷川副理事、吉野 PL、岩見沢市の黄瀬 PL 補、永井健康福祉部長、所教育部長、北海道庁の松田科学技術振興担当局長、日立製作所の山田ラボ長、竹本ラボ長代行が参加し、玉腰副 PL と国立成育医療研究センターの荒田副 PL は、オンラインで参加しました。

会議では、拠点の取り組みについての報告のほか、サイトビジットでのコメント、今後の emmy fes、若手研究者を支援する若手研究ファンドの採択状況、フードロス削減コンソーシアムでの岩見沢農業高等学校と連携した取り組みについて、吉野 PL が情報を共有しました。また、山田ラボ長から、「チャレンジフィールド北海道」における北海道の共創に向けた活動の紹介がありました。

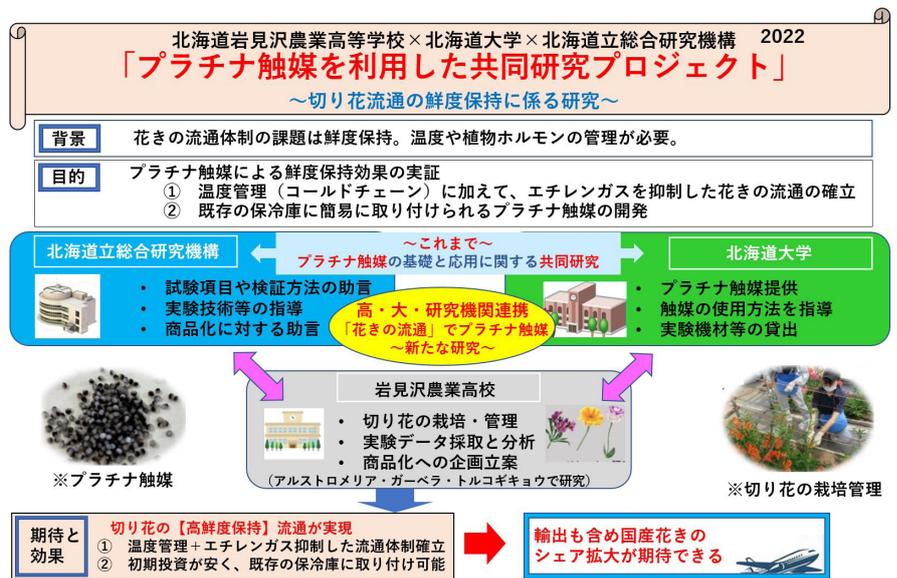
今後の課題として、研究開発課題全体の進め方、中高生にどのような当事者意識を持ってもらうか、岩見沢市ならではの学びの確立、拠点での活動の更なる拡大、幹事機関内での定期的な情報共有とディスカッションの必要性があげられました。今後は、半年に1度の予定で本会議を開催いたします。

プラチナ触媒を利用した切り花流通鮮度の保持に高校生が挑戦

北海道岩見沢農業高等学校(以下岩見沢農業高校)の生活科学科の生徒たちは2021年度、フードロス削減コンソーシアムが主催する、「フードロス削減アイデアコンテスト」に参加して、北海道知事賞を受賞しました。フードロス削減コンソーシアムでは、青果物の鮮度保持を対象にプラチナ触媒の実証試験を行っていますが、プラチナ触媒を野菜ではなく花きに利用するというアイデアが評価された結果です。さらにコンテストで発表した試験結果から、プラチナ触媒の使用が花きに対する鮮度保持効果を期待できることが示唆されました。これらの結果を受けて、本年度は岩見沢農業高校・北海道大学・北海道立総合研究機構の「高・大・研究機関連携」を作り、実用化に向けた研究が行われることになりました。

本年度の研究対象はアルストロメリア・ガーベラ・トルコギキョウで、岩見沢農業高校が実際の花の栽培・管理、実験データ採取と分析、商品化への企画立案を行います。北海道大学はプラチナ触媒提供と使用方法の指導、北海道立総合研究機構は試験や商品化に対する指導・助言をそれぞれ担当します。

【フードロス削減コンソーシアム】 食品の生産、流通、小売等のサプライチェーンにおけるフードロス問題の解決と歩留まり向上を目標に、北海道大学、北海道科学技術総合振興センター、北海道立総合研究機構、セコグループにより2020年に設立されました。本年度も引き続き、「フードロス削減アイデアコンテスト(受付終了)」を実施し、結果の発表は2023年3月の予定です。



げんき発見ドック in 岩見沢 (8/26、9/2)

岩見沢市と北大 COI が協力した『げんき発見ドック』が、8/26と9/2の2回に分けて開催され、108人が参加しました。スタートから3年目を迎えた同ドックは、通常の間人ドックとは異なり、ポジティブな健康維持・増進と、フレイル予防・改善に向けたプログラムが特徴。体組成や血圧、食習慣、口腔内の状態などの測定を通じて、健康状態や元気の度合を『自分で確認する』ことがねらいです。次回の開催は、2023年2～3月です。

産婦人科医が介入するプレコンセプションケア ～ 妊娠・分娩を科学的に学ぶ

こころとカラダのライフデザイン共創拠点（以下、拠点）で、研究開発リーダーを務める馬詰武先生は、『妊娠前・中・後の健康』をテーマに、3つの研究開発課題を設定しています。それぞれの課題には詳細な計画がありますが、今回はその中から、『産婦人科医が介入するプレコンセプションケア』についてご紹介します。

日本では、プレコンセプションケアは比較的新しいコンセプトのため、従来の性教育と同一視される場合も多く、教員や学生から戸惑いの声を聞くことがあります。馬詰先生は産婦人科医の立場から、生殖器の構造や生殖機能、また妊娠・分娩についての医学的な教育を行い、「科学として妊娠・分娩を伝えていく」ための方法を確立することで、『プレコンセプションケアの日本版』を構築していくことに繋がりたいと考えています。そのためには、学校の教員に、プレコンセプションケアを正確に理解してもらうことが必要不可欠なため、学生だけではなく教員とも学びあうことを大切にしています。

馬詰先生はこれまでも、札幌市内の高校において、妊娠・分娩に関する講義を行ってきました。そこでは、女性の妊娠後期の胴体模型と、エコー写真をもとに3Dプリンターで作成した胎児の模型（写真参照）を使用します。生徒たちはそれらに触れながら、週数に応じた胎児の成長や、妊娠の状況について学び、胴体模型から実際に胎児を取り出す体験することで、経膈分娩や帝王切開について、科学的に学ぶことができるよう工夫されています。

拠点では、今後もこのような講義を通して、妊娠・分娩についての正しい理解を深めてもらい、プレコンセプションケアを自分事としてとらえながら、個々人が自分らしい生き方をデザインできるよう、活動を続けていきます。



馬詰 武

北大 COI-NEXT こころとカラダのライフデザイン共創拠点
研究開発リーダー
北海道大学病院 産科 講師

VOICE

みなさま、こんにちは。

COI-NEXT がはじまり、早くも1年になろうとしています。新しい刺激に触発されながら、人の輪が広がり、この1年で「遠隔医療」と「新しい健康診断」、「分娩サイエンス」は着実に進んできました。夏の猛暑日に、神奈川県にある遠隔ロボットの企業訪問で実感した最先端技術のすばらしさ、夏休みの楽しい一コマのようでした。COI-NEXTは「お医者さん」を少し離れて、遊び心をもって活動できる贅沢な場です。次の1年も、驚くような楽しい研究と活動を皆さまと共に楽しみたいと思います。

今後のイベント（予定）

- 9.26 emmy fes 0.8 in 岩見沢
- 9.30 emmy fes 0.8 in 東京
- 10.1 長崎大学海洋未来イノベーション機構 第9回東京セミナー（石井 PL 登壇）
- 10.14 イノベーションジャパン内セミナー（吉野 PL 登壇）
- 10.25 第4回参画機関会議
- 11.05 emmy fes 0.9 in 岩見沢

S-RED 通信バックナンバー

S-RED通信

